Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Escitalopram Attenuates Fear Stress-Induced Amygdala Dopamine Increased According to Dopaminergic Sensitization: Implications of Fine-Tuning Action of SSRIs on Emotional Processing

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村岡, 寛之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31573

主 論 文 の 要 旨

Escitalopram Attenuates Fear Stress-Induced Amygdala Dopamine Increased According to Dopaminergic Sensitization: Implications of Fine-Tuning Action of SSRIs on Emotional Processing

抗うつ薬の情動への作用に関しての扁桃体ドパミン動態におけるエスシタロプラムの効果での検討

東京女子医科大学大学院
内科系専攻精神医学学分野
（指導：石郷岡純教授）
村岡　寛之

【要　旨】統合失調症のモデルであるメタンフェタミン慢性処理ラットに、恐怖ストレス（CFS）を負荷することにより情動記憶の中枢である扁桃体においてドパミン（DA）の放出が増強されることが知られている。我々はClozapineなどの向精神薬が扁桃体でのドパミン過剰放出を抑制することを報告している。このことが臨床においての情動安定化への薬剤効果の一因と考えている。今回我々は、代表的な抗うつ薬である escitalopram(ESCIT)において、扁桃体でのドパミン変動の変化について検討したので報告する。ラットにmethamphetamine（MAP）を10日間皮下注射しMAP逆耐性ラットを作成した。次に、CFS を行った。その後、脳定位手術で左側扁桃体にマイクロダイアリシスプローブを挿入しマイクロダイアリシス法において、DAの測定を行った。ESCITを投与するとDA過剰放出を抑制し、恐怖刺激に対するDA過剰応答を抑制する効果が認められた。ESCIT はセロトニン神経系への作用は知られているが、ドパミン神経系への作用は未だ解明されてはいない。今回の我々の報告は、ESCITの直接の作用点はセロトニン神経系であるが、間接的にはドパミン神経系にも作用し、情動安定化作用をきたしている可能性を示唆した。